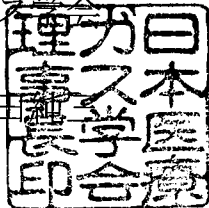


平成 23 年 3 月 24 日

日本救急医学会代表理事殿

日本医療ガス学会
理事長 武田 謹
印



東北地方太平洋沖地震に伴う医療ガス供給について

平成 23 年東北地方太平洋沖地震とそれに続く大津波により被災された皆様、そ
のご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧復興
をお祈り申し上げます。

日頃より医療ガスの安全確保対策と啓発活動にご理解・ご協力を賜り厚く御礼申
し上げます。

さて、日本医療ガス学会では、震災直後の混乱期を避け、被災から 4 日後に厚生
労働省から発出された工業用ガスボンベを医療用ガスボンベとして使用する際の注
意点の周知を行いました (<http://medical-gas.gr.jp/>)。さらに災害対策委員会を緊
急に開催し、医療ガスに関する現状把握、及び今後顕在化する可能性の高い問題
点を日本産業・医療ガス協会役員とともに抽出致しました。すでに当学会 HP には掲
載しておりますが、貴学会員にとって重要な事項でございますので、周知につきま
してご配慮をお願い致します。

平成 23 年 3 月 25 日

日本医療ガス学会 災害対策委員会からの緊急のお知らせ

理事長 武田純三
災害対策委員会委員長 安本和正

この度の東日本大震災を受けて、日本医療ガス学会では災害対策委員会を緊急に開催し、日本産業・医療ガス協会からこれまでの医療ガス供給の経緯と問題点、今後生じる可能性のある問題についての報告を受けました。協会会員各社は震災翌日に、被災地以外からタンクローリーを派遣し、2日後には現地に到着しております。タンクローリーなどのガソリン不足による二次災害も懸念されましたが、現在はその問題も徐々に解消に向かっております。また、震災前に登録していた都県の防災協定に基づく災害派遣車輛証明書を有している車輛が足りずに、行政の協力も得て協会会員各社は緊急車両登録の手続きを行い被災地への対応を行なったケースもあったようですが、それ以外は大きなトラブルは生じていません。

これまでに判明している問題点として、津波によって被災地では多くの酸素ボンベが喪失していることが挙げられます。液体酸素のタンク自体は耐震構造になっておりますが、災害拠点病院等には被災患者が殺到し通常の設備使用では対応しきれず、酸素供給を被災患者個別に酸素ボンベによって行っているケースが少なくない状況です。すでに工業用酸素ボンベの医療目的での使用許可についてはご報告致しておりますが、酸素ボンベの絶対数が不足する懸念がございます。

次に、在宅酸素療法を行っている患者の被災状況が不明であることと、非被災地域で行われている輪番停電の影響によるバックアップ用の酸素ボンベや酸素濃縮器の不足も懸念されております。

最後に、今後、酸素製造工場の被災や輪番停電による稼働力低下の影響が顕在化する可能性があります。酸素製造工場は震災前の段階ですでにフル稼働の状況にあり、これ以上の増産が厳しいことと、停電によりラインが停止すると酸素の純度を上昇させるために多くの時間を要することなどが、その理由です。

これらの状況に鑑み、各位におかれましては、全身麻酔時には高流量酸素を用いるのではなく中流量程度に設定することや、使用後の全身麻酔器や酸素吸入療法終了後の酸素を必ず停止するなどの酸素の節約にご協力下さいますようお願い申し上げます。なお、医療ガスに関するご要望などに関しましては、当学会事務局（連絡先：info@medical-gas.gr.jp、事務局長：小板橋俊哉）でお受け致しますのでお知らせ下さいますようお願い申し上げます。

△